助産師研修会「産科管理者研修会」

「医療事故調査制度と予期せぬ死亡・死産が発生した際の管理者の対応」

平成 28 年 6 月 18 日（土）

看護協会研修会館にて「産科管理者研修会」が行われました。看護師・助産師 45 名（うち学生 9 名）が県内各地から参加してくださいました。前半は日本看護協会看護開発部　教育制度課　課長　中谷順子先生をお招きしての講義、後半は講義を受けてのグループワークを行っていただき活発な意見が交わされました。

［講演］

「医療事故調査制度の概要及び予期せぬ死亡または死産が発生した際の管理者の対応」

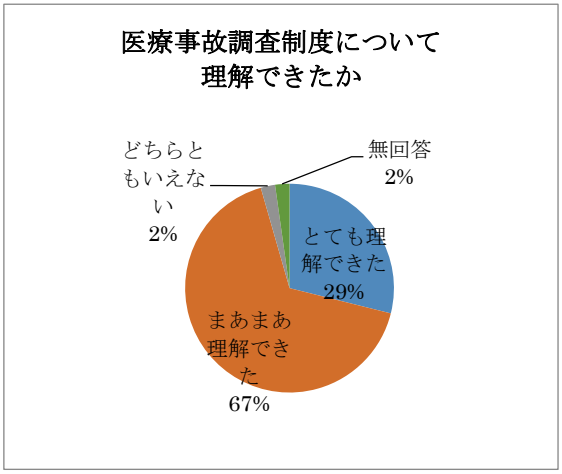
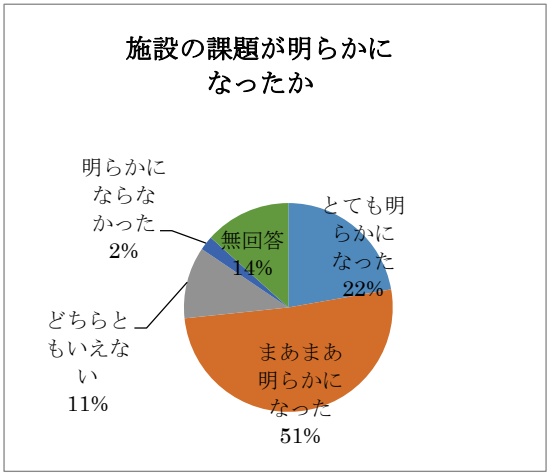
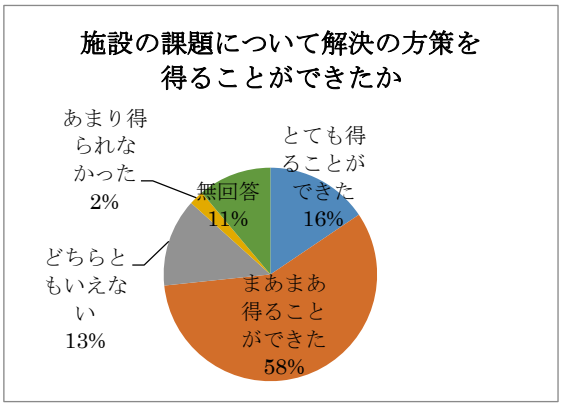
講師：日本看護協会看護開発部　教育制度課　課長　中谷順子先生

平成 26 年の医療法改正により制度化された「医療事故調査制度」について、日本看護協会看護開発部　教育制度課　課長の中谷順子先生に、「医療事故調査制度の概要及び予期せぬ死亡または死産が発生した際の管理者の対応」と題して、医療事故調査制度とは、産科における対応（医療事故調査制度の対象となる死産、医療事故調査制度の対象となる妊産婦死亡、助産所と医療事故調査制度、初期行動、遺体の保存・現場保存）、などについてご講演いただきました。

〔グループワーク〕

「医療事故発生に対する自施設の現状と課題」について 7 グループに分かれて各施設で意見を交わし、最後はそれぞれのグループで話し合われたことを発表していただきました。

〔研修を終えて〕

今回の参加者は管理者が半数近くを占め、学生が 20%という参加でした。その中でも医療事故調査制度についての理解については 90%以上が理解できていました。また、施設の課題やその課題についての方策についても 70%以上の参加者が「得ることができた」と

答えていました。自由意見では、「今まで考えなかったことを実際に聞いたり、グループワークして考えることができた。」や「様々な施設の話が聞けて勉強になった。今回参加したことを現場にいかしていきたい。」などの意見が挙げられ多くの学びを得る研修となりました。